

裏の湖

乙女ヶ池

天平宝字8年(764年)、^{てんぴん}天^{びん}平^{ほうし}宝^し字8年(764年)、謀反を起こして敗れた太政大臣藤原仲麻呂(恵美押勝)は、越前国(福井県)へ逃れようとする途中、勝野の鬼江で捕えられて処刑されました。この時、仲麻呂の一族郎党34人も鬼江で処刑されたと伝えられます。「鬼江」の地名は残っていませんが、おそらく現在の高島市勝野に所在する乙女ヶ池付近を指していると考えられます。



乙女ヶ池

と呼んでいました。「セド」も「裏側」を意味する言葉で、表の琵琶湖に対して内湖は裏側という意識がもたれていたようです。このような意識は、生活に関わる水の利用にもよく表れていました。琵琶湖の水は毎日顔を洗った

り、米を研いだり、きれいな水として使われました。一方、内湖は周囲の水田からの農業排水や生活排水が流れ込む、溜まり水として機能していました。排水が集められた内湖では水草が繁殖し、畑の肥料として、または乾燥を防ぐためにも使われていました。毎年7月になると、伸びた藻をさみ竹や備中鉄などで引っ張ってねじり取り、田船で運んで生葉のまま畑の敵に置かれました。また、冬場になると内湖の藻と泥を一緒に取り、畑地へ入れることも行われていたそうです。水草の他にも、内湖にはマコモと呼ばれる植物が繁殖し、牛の飼料として利用されていました。このように内湖から得た肥料などを直接畑に運び込むため、あるいは田畑の収穫物を集落まで運搬するために、内湖に接した家では必ず田船を一艘持っていて、陸地を運ぶ大八車やリヤカーなどは使われなかったそうです。また、谷水だけでは不足する場合の補助水源として、タニシ(竜尾車)と呼ばれる木製の手回しポンプを用いて内湖から水を汲み上げ、耕作に利用することも行われていました。

このように打下の集落をはじめ、琵琶湖岸で暮らす人々にとって、裏の湖(内湖)は琵琶湖と同じくらい生活に欠かせない、大切な存在だったのです。

閩文化財課

☎(32) 4467



琵琶湖と乙女ヶ池(遠景)

編集感

4月から広報担当になったMです。よろしくお願ひします。今年のGWは土日祝日が重なり、大型連休となりましたが、皆さんはどう過ごされたでしょうか。市内でも各地域でお祭りやイベントなどが数多く行われ、私も安曇川町四津川へ初めて取材に行きました。今まで知らなかった高島市の素晴らしいところを、皆さんにお伝えできればと思っています。色んな場所へ足を運び、新しい何かを発見できたら、こんな素晴らしいことはありませんね。(M)

広報たかしま

平成27年

6

月号 No.185

発行▼高島市

編集▼政策部秘書広報課

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t:info@city.takashima.lg.jp

